

難病コミュニケーション支援シンポジウムの報告

運営委員 澤口 勇治(患者家族)

日本財団助成事業として「難病コミュニケーション支援シンポジウム in HOKKAIDO」が、10月12日(日)札幌市教育文化会館で開催され、患者、コミュニケーション支援者、医療従事者など約120名の方々が参加しました。

このシンポジウムに先駆けて、9月6日～7日には「難病コミュニケーション支援講座」が開講され、全道各地から37名の医療従事者が参加され、①コミュニケーションとは何か!②コミュニケーションツールについて③操作スイッチの適合技術の講義があり、実技では透明文字盤や伝の心(意思伝達ソフト)を熱心に操作し技術の習得に努めておりました。

シンポジウムは、深瀬支部長始め5名のシンポジストが、所属する団体の活動報告と活動するなかで生じる問題点、そして支援体制の成功例を発表されました。特に NPO 法人 i Care ほっかいどう は、少ない予算のなかで全道各地に赴き、操作指導や各種相談に努めています。個人的には、この団体があつてこそ、コミュニケーション問題が解決出来るのではないかと考えています。

また、会場内には、伝の心やマイトビーなどの意思伝達装置が展示されており、休憩時間には、多くの人達が使用方法について質問されていました。

今回のシンポジウムは、コミュニケーションの大切さを学ぶものですが、参加されたみなさんは、やはり「口文字」による会話について、興味をもたれていました。

今後もこのような場を設けられ、多くの方にコミュニケーションについての知識を深めていただき、患者と接していただけたらと思います。